

ちよこっぴい話

昨年は四国霊場開創千二百年ということ、四国八十八カ所の霊場では御本尊の御開帳や記念法要等の特別催事が行われた。

11月23日、四万十町の37番札所の岩本寺で葉山小学校の児童が子供会活動としてお接待を行った。当日は朝から保護者・津野町婦人会員等と岩本寺前で、巾着



岩本寺でのお接待

袋に「児童からの手紙・飴・お守りストラップ」等を入れて巡礼の人たちへ200個を配付した。

それから1週間後に葉山小学校に全国各地からお礼の手紙等が届いた。久寿校長は驚き、大きな感動を受けて話題となった。

当日配付した手紙には「お遍路さん、ようこそ高知県へ、お寺を回るのは疲れると思います。風邪等ひかないように体に気をつけてお寺を回って下さい」との内容で児童達が書いていた。

お遍路さんは若者から高齢者まで色々な思いを胸に秘めて巡礼されている。旅の途中に思いがけない児童らのお接待に感動された様子がその手紙から伺える。

手紙の一部を紹介すると「お遍路さんを気遣う優しい言葉、元気を貰い嬉しかった」「温かいお接待、いただいた手紙は納経帳に入れて88番大窪寺まで持ち歩きます」「車椅子の母も全盲の私も兄と共に思いがけない

幸せのパワーを充電させていただきました」「飴はもつたいたないので味わって食べます、心のこもった手紙は何回も読み返しました」

木枯らしの季節、巡礼の途上で子供たちのお接待は人々の心を温めたことを想像できる。

今回の取組みは高知県ふるさと教育推進事業として津野町婦人会（会長・大崎章代）の呼び掛けで企画され、NPO「さわやか津野」・葉山小学校児童・教職員など多くの人々の協力で実施されたそうである。

「平成26年度ふるさと教育推進事業」について、津野町での活動は今年度限りとなるが、葉山小学校長は「多くの児童・教職員・保護者・地域の方々の協力で今回の取り組みが出来た。学校や家庭では教えることが出来ないことを児童は学んだし自分達も色々なことを教えてもらった。次年度に何かの形でお接待を続けるようにしたい」と語っていた。



お接待を行ったみなさん